

マレーシアに物流受託拠点、多言語販売に対応 ソーシャルエージェント、東南アジア越境ECを支援

Edited By LogisticsToday On 2015/06/23



ソーシャルエージェント（東京都港区）は23日、東南アジア向けの越境EC支援に特化した物流アウトソーシング・多言語販売支援サービス「EC-PORT」を発表した。

EC-PORTは、日本企業がマレーシアを拠点に運用する越境EC支援サービスで、クアラルンプールに物流拠点を持ち、在庫管理からマレーシア国内、近隣諸国への発送代行までをワンストップで受託する。

多民族国家のマレーシアの特性を生かし、東南アジアの複数の言語や文化に精通した国際色豊かなスタッフが製品情報の多言語翻訳・ECサイト構築・カスタマーサポートを支援する。

同社はサービスの提供開始に伴い、東南アジアへの越境ECを検討しているEC事業者向けのスタートアップキャンペーンを企画。海外販売で障壁となる製品情報の翻訳・販売ポリシーの策定・オンラインショッピングモールへの登録・カスタマーサポートなどをパッケージ化し、4万9800円（税別）で提供する。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/169921>

Copyright © 2019 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.